顔

旭医大病院病理部教授に就いた

谷野 美智枝氏

新たな知見発信を

故郷旭川に母校の教授として戻った。「臨床・教育・研究を使命とする大学で、患者のために働けるのがうれしい。同期の存在も心強く、母校に帰ってきた実感がある」。

専門は難治性呼吸器疾患。間質性肺炎や肺高血圧症に対し、がん遺伝子パネル検査のように遺伝子・形態・臨床像に基づく新分子病理分類を確立し、次世代の個別化医療に貢献するのが目標。中皮腫の新規治療法開発も目指す。また、臨床と基礎の中間的立場の強みを生かし、専門性にとらわれず、各講座と密に連携し「旭医大から新たな知見を発信する一翼を担いたい」と話す。

同大卒後、全身を診られる内科医を目指し北大第1内科に入局。担当患者の病態への疑問に、組織像と細胞像から明解な答えに導いてくれた病理学に魅了され転身した。学生には病理学の面白さを伝え、「目の前の患者、未来の多くの患者に希望をつなげる仕事だからこそ頑張れる」と必ず語り聞かせる。「女性教授として、女子学生、女性医師にエールを送り、頑張る背中を後押ししたい」。

北大腫瘍病理学教室講師から5月就任。病理診断科長を兼任。